



Habari ya Kenya

☆JICA 海外協力隊 ケニア通信 No.1☆ 2026年7月16日 発行者: 夏目佳代子

Hamjambo? (ハムジャンボ?) みなさんお元気ですか? 私は、2026年7月から2028年の3月まで、JICA 海外協力隊の青少年活動隊員としてケニアに派遣されることになりました。これから、協力隊の活動やケニアについてみなさんに伝えていきたいと思います。タイトルの「Habari ya Kenya (ハバリ ヤ ケニア)」はスワヒリ語で、「ケニアの便り、ニュース」という意味です。

☆「JICA 海外協力隊」って??

「JICA 海外協力隊」とは、日本政府の ODA (政府開発援助) 予算により実施される JICA (国際協力機構) の事業です。自分のもっている技術や経験を生かして、開発途上国で、現地の人々とともにその国や地域の課題解決に取り組むボランティア活動です。派遣先はアジア、アフリカ、中東、中南米、大洋州、欧州など。派遣は原則2年間です。1965年にラオスに初の協力隊員が派遣され、翌年にアフリカ初の派遣国としてケニアへの派遣が始まりました。2025年に協力隊活動は60周年を迎え、これまでの派遣国は述べ99カ国、累計派遣人数は58,000人を超えました。現在は、年に3回派遣され、私は2026年度1次隊として活動します。(参照: <https://www.jica.go.jp/volunteer/support/index.html>)

☆「青少年活動隊員」って??

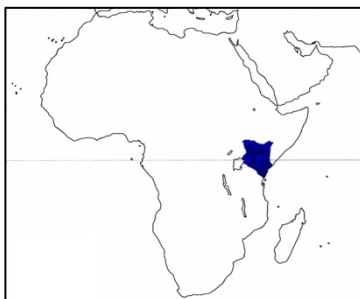
協力隊の活動は全部で177の職種があり、9つの分野に分かれています。

計画・行政	農林水産	鉱工業
人的資源	保健・医療	社会福祉
商業・観光	公共・公益事業	エネルギー

例えば、農林水産分野には、「食用作物・稲作栽培」「野菜栽培」「養殖」などの職種があります。人的資源分野には「小学校教育」「数学教育」「環境教育」各種スポーツなどの職種があります。「青少年活動」もこの分野の職種です。青少年活動隊員は、子どもや若者の健全な育成と自立を支援する活動を行います。配属先は、青少年センター、図書館、児童養護施設、人身取引被害者保護センター、難民キャンプなど様々です。私は、ケニアのキアンブ郡にある「キリギティ女子更生学校」で活動します。

職種の一覧を見ると、その多様さに驚きます。みなさんも、自分の好きなことや得意なこと、これまで学んできたこと、これから学びたいことがあると思いますが、その経験が、世界の誰かのためにつながっていく可能性をもっています。どんな職種があるか、ぜひ一度 HP を見てみてください。

☆「ケニア」ってどんな国??



「ケニア」と聞くと、何をイメージしますか? ケニアに派遣されることが決まり、私がぱっと浮かんだのは「サファリ」「紅茶」「マラソン」「マサイ族」でした。それはケニアのほんの一部で、実際に住んでみないと分からないことがたくさんあると思います。これから生活をする中で、ケニアの魅力をたくさん見つけたいと思います。

ケニアは、アフリカ大陸の東側、赤道直下にあります。面積は日本の1.5倍。人口は5,643万人(2024)。様々な民族が暮らしています。ケニアには47のカウンティがあります。カウンティとは行政区画のことで、日本語では「郡」と言います。日本の都道府県の数と同じですね。キアンブ郡は、首都ナイロビから北に1時間ほどバスで行ったところにあります。どんな町なのでしょう。ドキドキワクワクです。

(参照: <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/kenya/data.html>、『ケニアを知るための55章』明石書店)

☆「派遣前訓練」って??

協力隊に参加することが決まってすぐに派遣されるわけではありません。派遣国で充実した活動ができるように、派遣前には「派遣前訓練」が行われます。長野県駒ヶ根市と福島県二本松市に訓練所があり、そこで約 73 日間の合宿訓練を行います。訓練で学ぶことは、①JICA 海外協力隊の基礎、②語学訓練、③健康、安全管理、④異文化理解、⑤所外活動 です。

＜訓練の 1 日＞ ※2025 年度 3 次隊のスケジュール

7:10-	朝食	15:00-	各種講座
8:10-	朝のつどい 点呼・国旗掲揚・事務連絡など		派遣国で活動する際に必要な手法や健康管理、安全対策などを学びます
8:45-	語学訓練 少人数で、話すことに重点をおいた実践的な授業です	18:00-	夕食 片付けなども当番で行います
11:40-	昼食	19:00-	語学自習・自主講座など 訓練生が、講座の企画運営を行い、様々な講座が開かれます
13:00-	語学訓練 午後も授業が続きます	23:00-	消灯

(参照: https://www.jica.go.jp/volunteer/training_center/)

私は、今回 2 回目の派遣ということもあり、(前は中米ニカラグアで活動していました。)合宿型訓練ではなく、オンラインで訓練を受けました。活動の手法、異文化理解、健康管理や安全対策のオンライン講座を受けたり、任国研究をしたりし、学んだことをレポートにまとめて提出しました。また、「任国事情」講座では、二本松訓練所を訪れ、現在ケニアで活動されている隊員とオンラインでつなぎ、生活や活動の話を聞きました。現地での実際の生活の様子を知ることができて心配が少し解消されました。何より、オンライン上でしか知り合っていなかった、同じ時期に派遣されるケニア隊員 6 人と実際に会っていろいろ話すことができてよかったです。



☆二本松訓練所

ケニアは英語の他にスワヒリ語が公用語なので、その勉強をしています。語学学習のアプリとしてよく耳にする Duolingo を見てみると、スワヒリ語もありました！まずは Duolingo から始め、参考書も使いながら少しずつ学習を進めています。スワヒリ語はアルファベットを使い、基本的にローマ字読みができますが、日本語とも英語とも異なる文法もあり、単語もなかなか覚えられません。タンザニア隊員が、自主講座としてケニア隊員向けにスワヒリ語レッスンを行ってくれるということで、私もオンラインでつないでもらって参加しました。一緒に学ぶ仲間がいる方が、モチベーションが上がります。

普段はあまり意識しなくても健康と安全に過ごせていますが、現地では日本とは違う環境なので、いつも以上に健康管理と安全対策が必要です。感染症や安全対策の講座を受け、ワクチンを接種しました。A 型肝炎、B 型肝炎、狂犬病など合計 9 本！常備薬や虫除け、防犯対策グッズなどたくさんスーツケースに詰めて出発に向けて準備をしました。健康と安全第一で過ごしたいと思います。

今回、海外協力隊に参加するにあたり、たくさんの温かい言葉や声援をいただきました。大きな力をもらうとともに、周りの人とのつながりに支えられていることを実感する日々でした。言葉も文化も人々の価値観もちがう中で、日本と同じようにいかないこともたくさんあると思いますが、「現地の人々とともに」という気持ちを忘れず、ケニアで出会う人たちとよい人間関係を築きながら、自分にできることを一つずつ取り組んでいきたいと思っています。いよいよ 7 月 27 日に出発です！